

第1回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 平成29年3月28日（火）午後3時00分～午後5時20分

◆会場 南あわじ市役所本館3階 304会議室

◆出席者 委員：8名

松坂委員（委員長）、碓委員（副委員長）

伊吹委員、喜田委員、鈴木委員、谷池委員、野上委員、吉川委員、

南あわじ市：1名

市長

事務局：4名

企画部長、ふるさと創生課長及びふるさと創生課担当2名

傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会 事務局から開会の言葉

2. あいさつ 守本市長あいさつ

3. 委嘱状交付

- 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会条例第3条の規定に基づき、委員の委嘱状について、各委員に対し交付（席上配布）した。

4. 自己紹介

- 委員、事務局順に自己紹介を行った。

5. 総合戦略検証委員会の運営について

- 事務局より、総合戦略検証委員会の運営にあたり、「委員会の設置目的」、「委員会の所掌事務」、「会議録」、「情報の公開」、「委員の発言等」について内容を説明した。
- また、合わせて「総合戦略検証委員会傍聴規程」について内容を説明するとともに、一般の方々が傍聴できる旨を説明した。

6. 委員長及び副委員長の選任について

- 出席委員の互選により、委員長に「松坂委員」、副委員長に「碓委員」が選任された。
- 新たに選任された委員長及び副委員長を代表して、松坂委員長よりごあいさつをいただいた。

7. 諮問について

- 南あわじ市長より委員長に対して、南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会条例第2条の規定に基づき、総合戦略の効果検証について調査審議を求める「諮問」を行った。

8. 報告事項

報告① まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

報告② 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略〔平成28年度改訂版〕について

報告③ 総合戦略における評価・検証スケジュールについて

報告④ 平成27年度総合戦略事業における進捗管理について

○ 事務局より報告①～④について、内容説明等を行った。

【委員の主な質問・意見】

- ・委員：P52中大規模直売所の売上高の目標値が現状値の約30倍となっており、目標値が高すぎないか？
⇒事務局：現状値は26年度の売上高であるが、実質2週間程度で年度が終わっており、27年度は4.23億となっており、2倍程度の目標である。
- ・委員：わかりにくいため、注釈が必要ではないか。
⇒事務局：検討させていただく。
- ・委員：美菜恋来屋で買うお客の中で、季節感がわからずいつ行っても同じものが買えると思っている人がいる。ポップを立てるなど広報が必要である。
⇒事務局：担当部署へ伝えます。
- ・委員：資料別冊2では施策目標に対して評価を行っているが、これは誰が行った評価なのか。今後の評価の仕方はどうなるのか。また、P57中児童虐待防止対策事業とはどのようなものか。
⇒事務局：総合戦略の策定が28年3月であったため、27年度事業については、実質既存事業の振替が多かったため、内部評価のみを行っている。28年度事業以降は、内部評価と検証委員による評価の二本立てを予定している。
児童虐待防止対策事業とは、虐待防止の啓発や巡回相談、講座の開設などを予定している。
- ・委員：吉備国際大学入学者への補助について、人口増につながるものであると思うが、総合戦略に記載はないのか。効果等についてはどうか。
⇒事務局：内容を確認し検討させていただく。
- ・委員：吉備国際大学が開学したことにより、学生が4年間でコンビニでのアルバイトや農業関係のアルバイトなど地域に入り活動している。特に農業では高齢化が進み収穫作業が大変である。今後は、人口ピラミッドを見ても若い人に住み続けてもらうような対策が必要である。市の主要産業である1次産業にどれだけ人が投入できるか。
⇒事務局：今年は吉備国際大学地域創成農学部の学生が初めて卒業する年であり、13名程度が島内に残る予定である。
- ・委員：小学校低学年では淡路が好きで住み続けたい割合が多いが、高学年以上になると郷土愛よりも都会への憧れが強くなる。
- ・委員：淡路島では吉備国際大学も開学したが、やはり高校卒業で人がいなくなる。淡路市では看護専門学校が開学しているが、資格取得にかかる専門学校の開学など地域に残る対策が必要である。

- ・委員：高齢者が都会へ出ても、住みにくいなどまた淡路に帰ってくる人がいる。子ども夫婦を連れて帰って来たりするが、その夫婦が介護の期間だけでも働ける職場があれば、一定期間の滞在もあるのではないか。

⇒事務局：次年度より新しく地域包括ケアシステムが始まり、要支援1や2を認定されている人については、国から市へサービスが移管されます。その中で新しい事業も始まっていくことになります。また、企業誘致については、淡路市でも事業所ができ人員を募集しても人が集まらない状況である。企業団地においては残り1区画であるが、四国の方が物価が安く県の補助金も手厚い状況で苦戦しています。

- ・委員：福良でも南海地震の被害想定により空き家や空き地、駐車場が増え風景が様変わりしている。

9. その他

その他① 次回総合戦略検証委員会日程について

- 事務局より、次回の委員会日程について説明を行った。

【委員の主な質問・意見】

- ・委員：可能であれば、第2回委員会は、6月20日以降で農繁期を外してほしい。

⇒事務局：検討させていただきます。

10. 閉 会

- 閉会にあたり、碓副会長よりごあいさつをいただいた。

以上